

コンポジットシステム

COMPOSITE SYSTEM AS

省力化をかなえる新複合防水工法

非 溶剤系

立上り部 非 撤去型

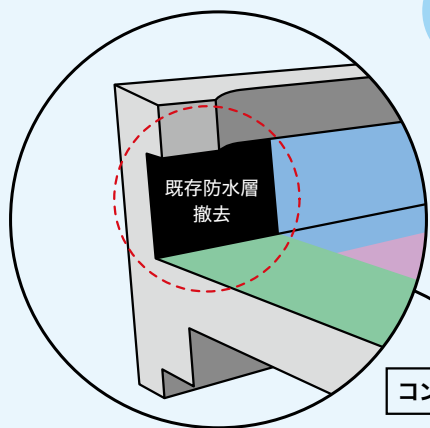
コンポジットシステム

COMPOSITE SYSTEM AS

改質アスファルト防水 × 特殊アクリルゴム系塗膜防水

立上り防水層は、面積の割にその撤去にかかる費用や時間が多くかかる傾向にあります。立上り部に改質アスファルト防水との相性に優れた特殊アクリルゴム系塗膜防水を採用することで、既存の立上り防水層や押え金物、シーリングを撤去せずに改修が可能になりました。

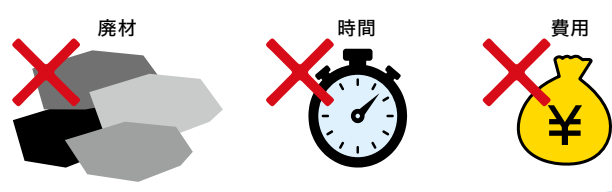
従来 立上り部撤去



Merit 01

工期短縮とコスト低減に貢献

立上り防水層の撤去に要していた時間と費用を削減します。



コンポジットシステムAS
立上り部非撤去

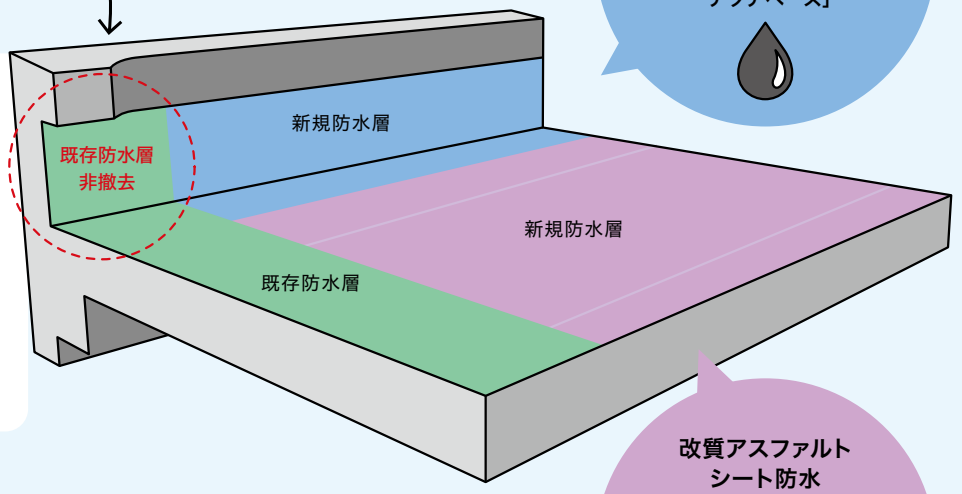
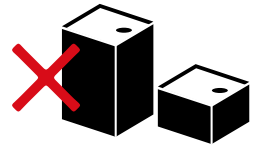
特殊アクリルゴム系塗膜防水

耐久性に優れ、アスファルト防水との接着に優れたアクリルゴム系塗膜防水「アクアベース」

Merit 02

非溶剤系システム

使用材料を全て非溶剤系に統一。究極の環境対応を実現しました。



改質アスファルトシート防水

施工性に優れた信頼と実績の改質アスファルトシート防水「ガムクール防水」「ポリマリット防水」

Merit 03

ライフサイクルコスト低減

次期改修もかぶせ工法が可能のため、撤去工事を要する工法に比較してライフサイクルコストを低減できます。



※既存アスファルト防水の状態・防水端末金物の取り付け状態が悪い場合は適用できません。採用の可否は10ページをご覧の上、必ず弊社営業担当までお問合せください。採用が難しい場合は立上り部の撤去を実施してください。※防水層端末の仕上がりは施工時の刷毛目が残ります。予めご了承ください。

Merit
01

工期短縮とコスト低減に貢献

立上り防水層の撤去は雨養生の処理を平行して行うので時間と費用がかかる作業です。コンポジットシステムASは立上り防水層を撤去しないので工期短縮とコスト低減に貢献します。

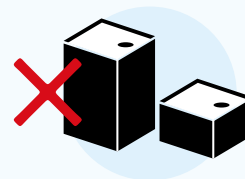
工期比較イメージ



Merit
02

非溶剤系システム

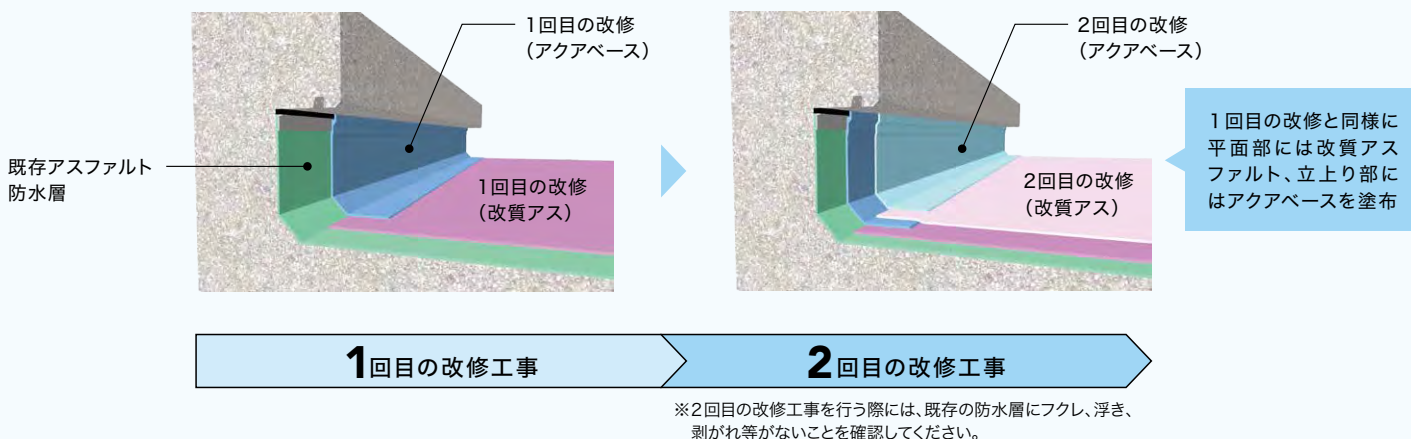
コンポジットシステムASは、下地処理材から仕上げの保護塗料までシーラ材を含む液状材料がすべて水性タイプで構成された、人と環境にやさしい防水システムです。



Merit
03

ライフサイクルコスト低減

コンポジットシステムASで施工すれば次期改修時も同じ組合せでかぶせ改修が可能です。撤去や金物の設置が不要なため、建物のライフサイクルコストを低減します。



仕様番号の見方

CM
コンポジット

H
非撤去

- **GSS-2S**

ガムクール防水 2層貼り

- **GSS-1**

ガムクール防水 1層貼り

- **PSS-2S**

ポリマリット防水 2層貼り

- **PSS-1**

ポリマリット防水 1層貼り

改質アスファルト防水との複合に最も適した塗膜防水

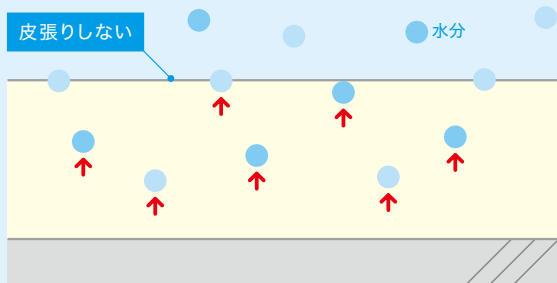
特殊アクリルゴム系塗膜防水 **AQUABASE** アクアベース



速乾性を発揮する皮張りしない硬化システム

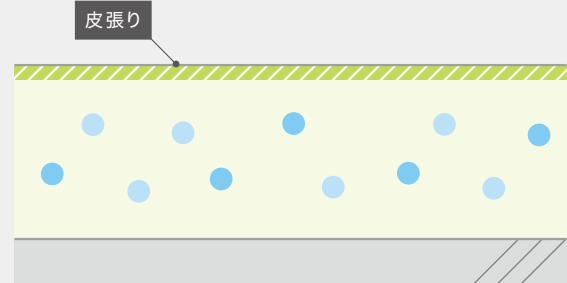
アクアベースは主成分にアクリルゴムを採用した水性塗膜防水材です。
表層の皮張り抑制機能を持ち、均一に乾燥が進行するため、高品質な防水層を形成します。

アクアベースの硬化のしくみ



アクアベースは硬化に際して表層に皮張りを生じさせない特殊配合品。下層の水分が上層へ移動し、表層は常に水分を供給され続けることで皮張りが生じない仕組みです。

一般の水性塗膜防水材



一般の水性塗膜防水材は表面から乾燥が始まることから、皮張りしやすく乾燥が遅い傾向があるため、工期が天候に左右されやすいという欠点があります。

改質アスファルトとの強固な接着性

アクアベースと改質アスファルト防水の接着には専用プライマー(アクアプライマー)を使用します。
アクアプライマーを塗布することで、耐熱性・耐水性も踏まえた長期の接着性が維持されます。

80℃熱処理接着試験

試験方法 : 180度ピーリング試験
テストスピード : 200mm/min
劣化処理 : 80℃熱処理
測定温度 : 20℃

アクアプライマーを塗布



アクアベースの凝集破壊

プライマーなし



アクアベースと改質アスファルト界面剥離

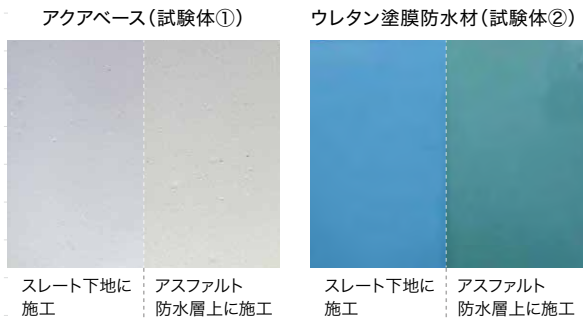
アスファルトの成分移行に影響されない塗膜特性

アスファルトに含まれる低分子の油分は、一般的な塗膜防水であるウレタンゴム系塗膜防水を塗布した場合、伸び率等物性の低下を招きます。アクアベースは、これらに対して物性の低下がほとんどありませんので、長期の耐久性が期待できます。

【物性比較試験】

アスファルト防水層の上に、アクアベースを塗布した試験体①と、ウレタン塗膜防水を塗布した試験体②を用意し、それぞれ促進劣化を行いアスファルトの成分移行が物性に与える影響を確認した。

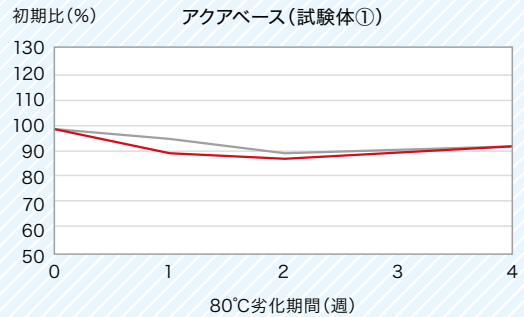
試験方法:引張試験で伸び率を測定(熱劣化条件:80°C 4週間)
 下地:断熱アスファルト防水、スレート板(①②共通)
 試験体①:アクアプライマー/アクアベース
 試験体②:水系エポキシプライマー/ウレタン塗膜防水材



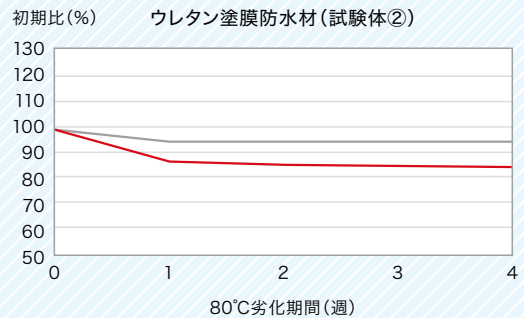
ほとんど何の変化もみられない

アスファルト成分の移行により、変色がみられる

物性 保持率(%)



アスファルトの成分移行による影響はほとんどみられない



アスファルトの成分移行によりウレタン塗膜防水の物性が低下している

システムを支える確かな塗膜物性

アクアベースは屋根アクリルゴム系塗膜防水JIS 6021に匹敵する塗膜物性を持ち、長期にわたり耐候性、耐久性を維持します。

項目		アクリルゴム系	アクアベース※
引張性能	引張強さ(N/mm ²)	試験温度 23°C	1.3以上
		試験温度 -20°C	1.3以上
		試験温度 60°C	0.40以上
	破断時の伸び率(%)	試験温度 23°C	300以上
		試験温度 23°C	120以上
	破断時のつかみ間の伸び率(%)	試験温度 23°C	180以上
試験温度 -20°C		70以上	
試験温度 60°C		150以上	
引裂性能	引裂強さ(N/mm)	6.0以上	11
加熱伸縮性能	伸縮率(%)	-1.0以上1.0以下	-0.29
劣化処理後の引張性能	引張強さ比(%)	加熱処理	80以上
		促進暴露処理	80以上
		アルカリ処理	60以上
		酸処理	40以上
	破断時の伸び率(%)	加熱処理	200以上
		促進暴露処理	200以上
		アルカリ処理	200以上
		酸処理	200以上
伸び時の劣化状況	加熱処理	ひび割れ変形なし	
	促進暴露処理	ひび割れ変形なし	
	オゾン処理	ひび割れ変形なし	

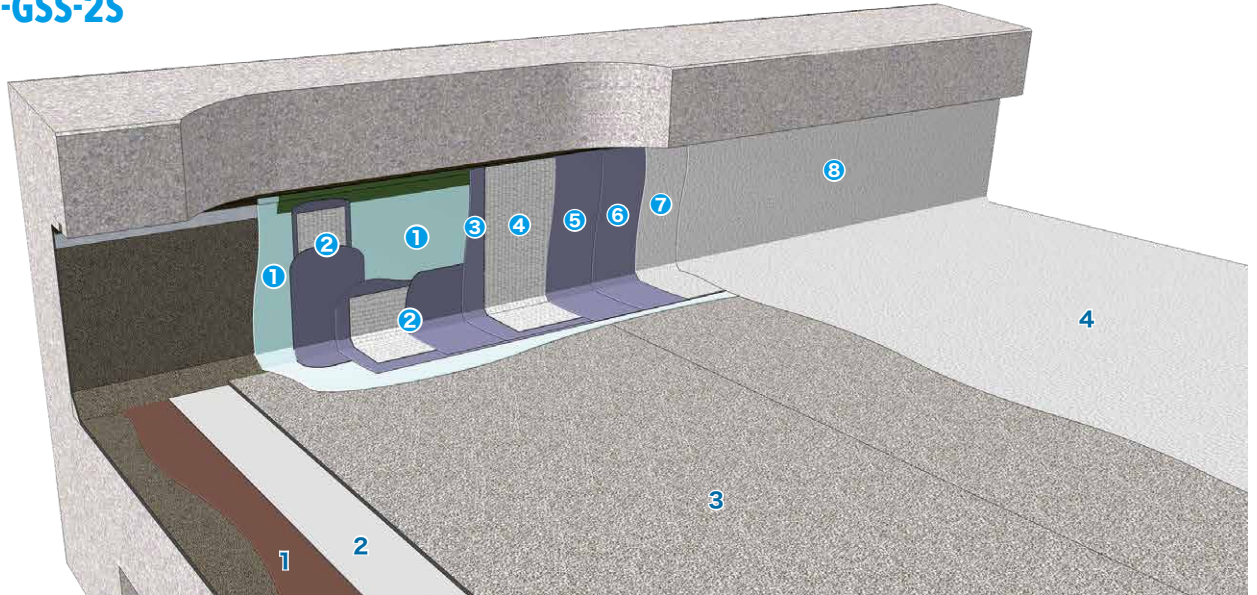
※代表値であり、保証値ではありません。

ガムクール防水×アクアベース

平面部:改質アスファルト 常温工法(ガムクール防水)

立上り部:特殊アクリルゴム系塗膜防水(アクアベース)

CMH-GSS-2S



CMH-GSS-2S

防水層重量目安:7kg/m²(下地処理含まず)

厚み:約4mm(下地処理含まず)

平面部			立上り部		(単位:/m ²)
1	クールベース※1	1.4~2.0kg	①	アクアプライマー	0.15kg
2	ガムクールFS	-	②	増貼り※2 (6ページ図参照)	-
3	ガムクールキャップ	-	③	アクアベース	1.0kg
4	SPファインカラー	0.4~0.6kg	④	メッシュJK	-
5	-	-	⑤	アクアベース	1.0kg
6	-	-	⑥	アクアベース	1.0kg
7	-	-	⑦	SPファインカラー	0.15kg
8	-	-	⑧	SPファインカラー	0.15kg

* 平面部ガムクールキャップの端部にはGCラインを充填します。

* 立上り端部にはGCラインを充填します。立上り端末処理については9、12ページをご参照ください。

※1 クールベースの代わりにリベースに変更する場合塗布量が変わります。(右表参照)

※1 下地処理

クールベース

配合比(重量)

クールベース	クールベースパウダー
1	2

塗布量目安

下地	塗布量目安
砂付面の下地処理	1.4~2.0kg/m ²

リベース

塗布量目安

下地状態	塗布量目安
砂付面	1.2kg/m ²
砂落ちした砂付面	1.0kg/m ²
細砂砂付面	0.8kg/m ²

注意事項(10ページの「採用にあたっての注意点」もご確認ください)

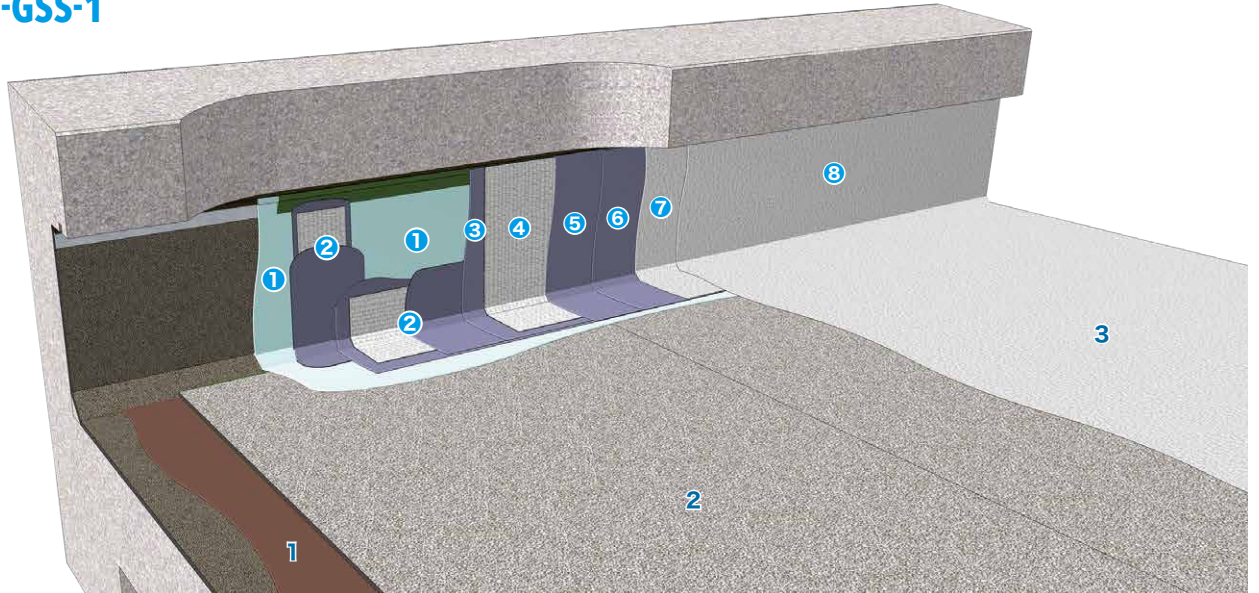
・アクアベースは水性のため、5°C未満での施工は控えてください。

・ドレン廻りや補強用に使用するガムクールFXの上にアクアベースを塗布する場合は、必ずアクアプライマー(0.1kg/m²)をガムクールFXの表面に塗布してください。

・既存が塩ビシート、ゴムシートの場合は採用できません。

・側溝やドレン廻りなど雨水が滞留する部位にアクアベースを使用する場合は、立上り部 工程6と7の間に、アクアプライマー(0.1kg/m²)を塗布してください。

CMH-GSS-1



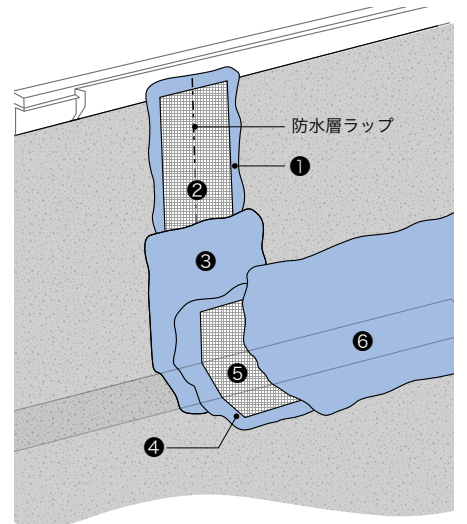
CMH-GSS-1

防水層重量目安: 6kg/m² (下地処理含まず)
 厚み: 約4mm (下地処理含まず)

平面部			立上り部		(単位: /m ²)
1	クールベース※1	1.4~2.0kg	①	アクアプライマー	0.15kg
2	ゴムクールキャップEX	-	②	増貼り※2 (右図参照)	-
3	SPファインカラー	0.4~0.6kg	③	アクアベース	1.0kg
4	-		④	メッシュJK	-
5	-		⑤	アクアベース	1.0kg
6	-		⑥	アクアベース	1.0kg
7	-		⑦	SPファインカラー	0.15kg
8	-		⑧	SPファインカラー	0.15kg

* 平面部ゴムクールキャップEXの端部にはGCラインを充填します。
 * 立上り端部にはGCラインを充填します。立上り端末処理については9、12ページをご参照ください。
 ※1 クールベースの代わりにリベースに変更する場合塗布量が異なります。(左ページ参照)

※2 増貼り



- ① 既存アスファルト防水立上り部ラップ部に幅100mm程度アクアベースを塗布。
- ② メッシュJKを貼付け。
- ③ アクアベースを塗り重ねる。
- ④ 入隅部に幅200mm程度アクアベースを塗布。
- ⑤ メッシュJKを貼付け。
- ⑥ アクアベースを塗り重ねる。

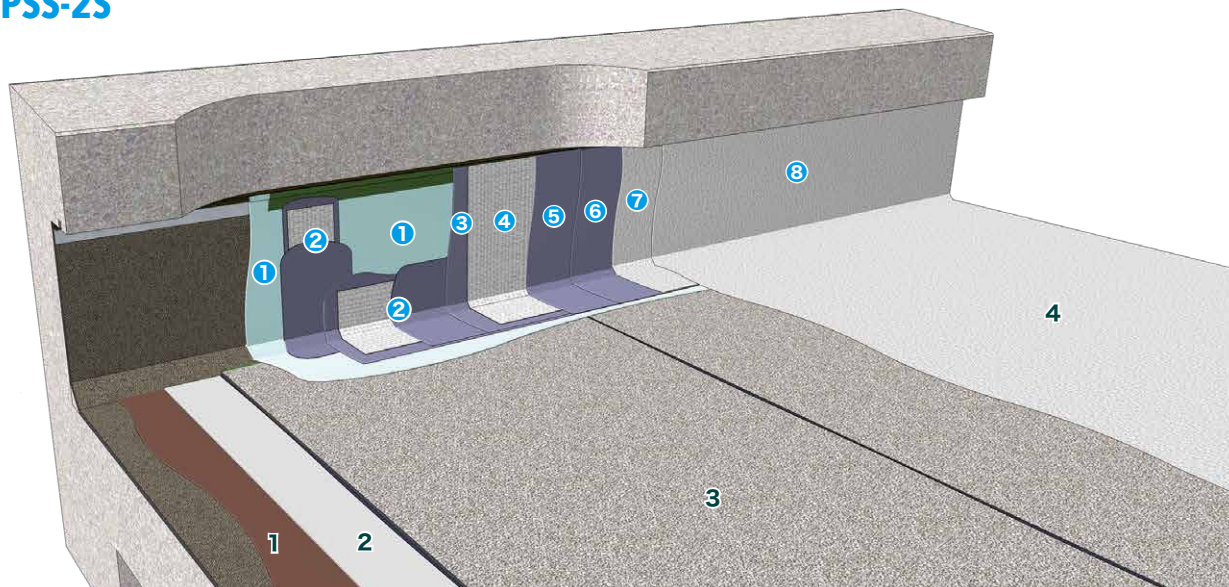
・アクアベースはエンシシートと組合せて使用することは、できません。
 ・SPファインカラーに代えて、SPクリーンカラー、SPミッドカラー、SPサーモコートもご採用いただけます。(価格別途)
 ・クールベースの代わりにリベースを使用する場合は、非溶剤系システムにはなりません。

ポリマリット防水×アクアベース

平面部:改質アスファルト トーチ工法(ポリマリット防水)

立上り部:特殊アクリルゴム系塗膜防水(アクアベース)

CMH-PSS-2S



CMH-PSS-2S

防水層重量目安:9kg/m²(下地処理含まず)

厚み:約5.5mm(下地処理含まず)

平面部			立上り部		(単位:/m ²)
1	クールベース※1	1.4~2.0kg	①	アクアプライマー	0.15kg
2	ポリマリットPS	-	②	増貼り※2 (8ページ図参照)	-
3	ポリマリットフェース	-	③	アクアベース	1.0kg
4	SPファインカラー	0.4~0.6kg	④	メッシュJK	-
5	-	-	⑤	アクアベース	1.0kg
6	-	-	⑥	アクアベース	1.0kg
7	-	-	⑦	SPファインカラー	0.15kg
8	-	-	⑧	SPファインカラー	0.15kg

※1 下地処理

クールベース

配合比(重量)

クールベース	クールベースパウダー
1	2

塗布量目安

下地	塗布量目安
砂付面の下地処理	1.4~2.0kg/m ²

リベース

塗布量目安

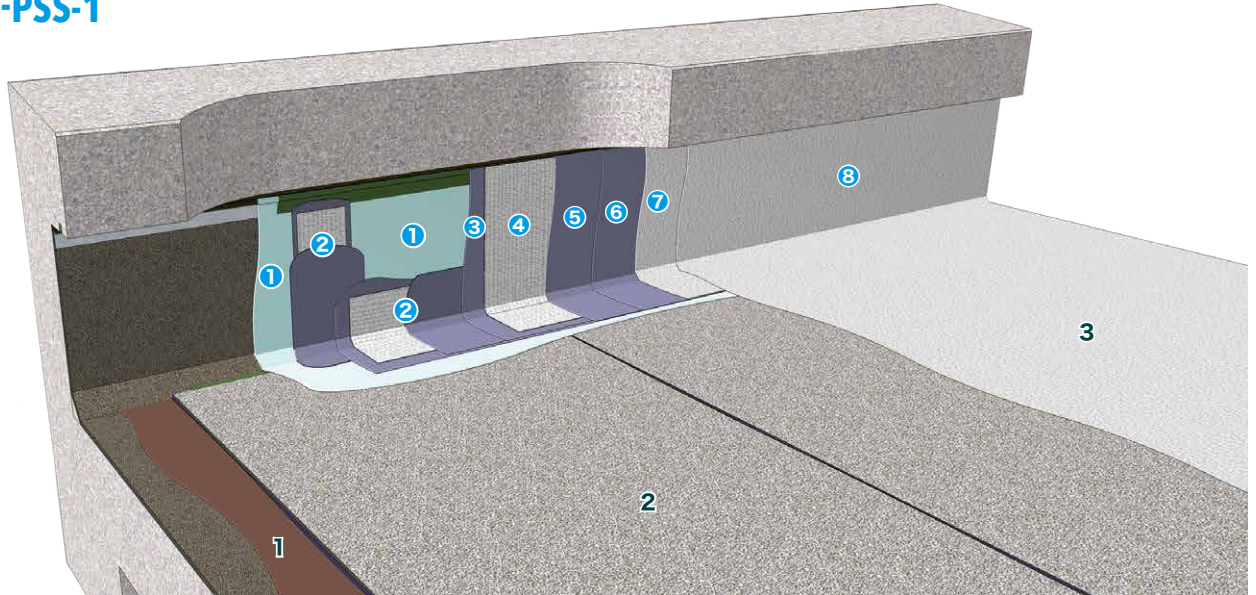
下地状態	塗布量目安
砂付面	1.2kg/m ²
砂落ちした砂付面	1.0kg/m ²
細砂砂付面	0.8kg/m ²

- * 平面部ポリマリットフェースの端部にはGCラインを充填します。
- * 立上り端部にはGCラインを充填します。立上り端末処理については9、12ページをご参照ください。
- ※1 クールベースの代わりにリベースに変更する場合は塗布量が変わります。(右表参照)

注意事項(10ページの「採用にあたっての注意点」もご確認ください)

- ・ドレン廻りに使用するポリマリット25や、補強用に使用するポリマリットGLの表面のフィルムは、必ず炙って溶かした上でアクアプライマーを塗布してください。
- ・アクアベースは水性のため、5℃未満での施工は控えてください。
- ・既存が塩ビシート、ゴムシートの場合は採用できません。
- ・側溝やドレン廻りなど雨水が滞留する部位にアクアベースを使用する場合は、立上り部 工程6と7の間に、アクアプライマー(0.1kg/m²)を塗布してください。

CMH-PSS-1



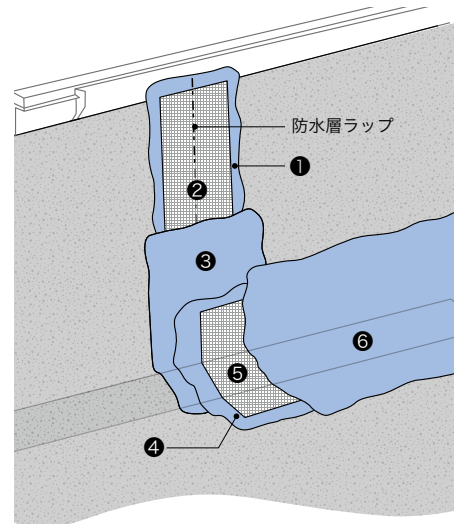
CMH-PSS-1

防水層重量目安: 6kg/m² (下地処理含まず)
厚み: 約4mm (下地処理含まず)

平面部			立上り部		(単位: /m ²)
1	クールベース※1	1.4~2.0kg	①	アクアプライマー	0.15kg
2	ポリマリットフェース	-	②	増貼り※2 (右図参照)	-
3	SPファインカラー	0.4~0.6kg	③	アクアベース	1.0kg
4	-		④	メッシュJK	-
5	-		⑤	アクアベース	1.0kg
6	-		⑥	アクアベース	1.0kg
7	-		⑦	SPファインカラー	0.15kg
8	-		⑧	SPファインカラー	0.15kg

* 平面部ポリマリットフェースの端部にはGCラインを充填します。
* 立上り端部にはGCラインを充填します。立上り端末処理については9、12ページをご参照ください。
※1 クールベースの代わりにリベースに変更する場合は塗布量が異なります。(左ページ参照)

※2 増貼り



- ① 既存アスファルト防水立上り部ラップ部に幅100mm程度アクアベースを塗布。
- ② メッシュJKを貼付け。
- ③ アクアベースを塗り重ねる。
- ④ 入隅部に幅200mm程度アクアベースを塗布。
- ⑤ メッシュJKを貼付け。
- ⑥ アクアベースを塗り重ねる。

・アクアベースはエンシンシートと組合せて使用することは、できません。
・SPファインカラーに代えて、SPクリーンカラー、SPミッドカラー、SPサーモコートもご採用いただけます。(価格別途)
・クールベースの代わりにリベースを使用する場合は、非溶剤系システムにはなりません。

コンポジットシステムASの工程と納まり

施工ならびに端末の納まりは下記手順や方法を遵守してください。

立上り部の施工手順

コンポジットシステムASは平面部の防水層を施工後、立上り部の施工を開始します。

気温が25℃以上の場合、アクアプライマーから保護塗料までを2日で施工する事も可能ですが、一度に厚膜を施工すると乾燥収縮による不具合が生じる場合がありますので、指触乾燥を確認しながら次工程に移ってください。

GCライン増打ち



GCライン増打ち



縦目地上 メッシュJK増貼り



入隅部 メッシュJK増貼り



既存(L字型)端末金物上部と金物の谷部に増打ちし、谷部はヘラでならしてL字の段差をなだらかにしてください。

メッシュJKは浮きの無いよう、ポリベラでしっかり押さえてください。

アクアベース塗布(1回目)



メッシュJK貼付け



アクアベース塗布(2・3回目)



保護塗料塗布



ローラーでネタ配り後、塗布量確保のためクシバケで均してください。

立上り部のメッシュJKは、端末金物を覆うように貼りかけてください。

ローラーでネタ配り後、クシバケで均し、ポリベラ等で平滑にしてください。

※既存端末金物が波打っている場合や既存端末シールの幅が狭い場合、メッシュJKには粘着層がないため端部が跳ねてしまうことがあります。その場合、金物から端末シールにかけては、メッシュJKに代えてエンドラップテープ100を使用してください。

パラペットに適切な水切目地が施工されている場合とされていない場合の雨仕舞方法について

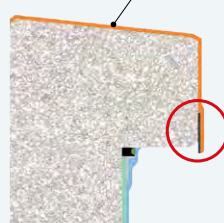
水切目地が施工されている場合

パラペットに適切な水切目地が施工されている場合は、雨水がパラペットあご裏をつたうことはありませんので、雨仕舞用の部材は不要です。



水切目地が施工されていない場合

ウレタン塗膜防水



アゴテープ併用法

パラペットをウレタン塗膜防水で施工する場合は、アゴテープを使用して雨水がアゴ裏に回らないようにします。



アゴメタル併用法

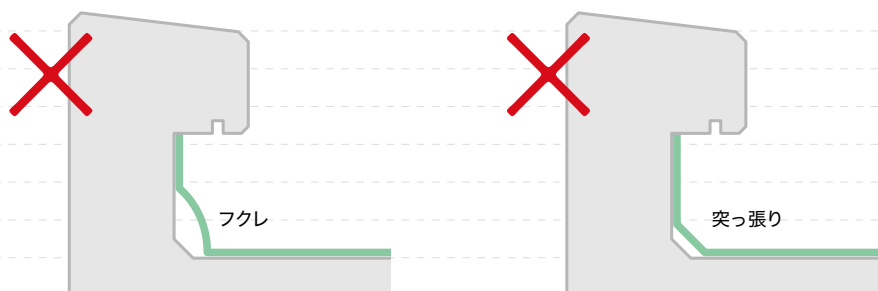
パラペットをウレタン塗膜防水で施工しない場合や壁廻り部は、アゴメタルを使用して雨水がアゴ裏に回らないようにします。

※アゴメタル上端部には、シールを打設してください。

コンポジットシステムAS採用にあたっての注意点

コンポジットシステムASは、既存の立上り防水層・押え金物・防水端部のシーリングを撤去しない改修工法です。既存の状態によっては適用できない場合がありますので、弊社担当者へお問合せの上、採用をご検討ください。

(1) 既存立上り防水層全体に接着力低下によるズレやフクレ・収縮によるシワ・突っ張りがみられる場合は採用できません。

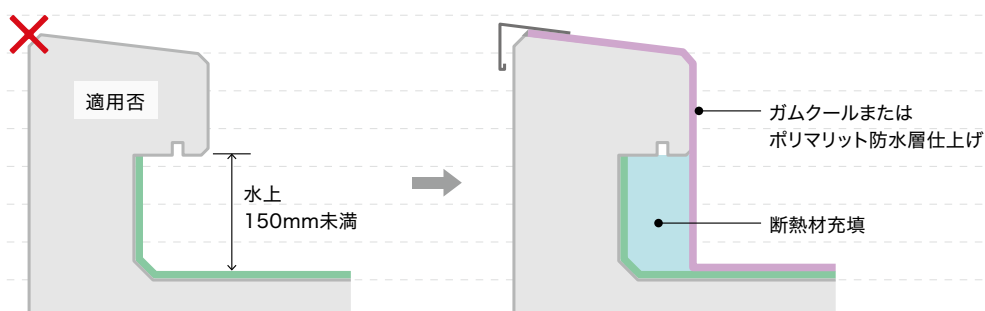


(2) 既存立上り防水層全体の表層が著しく劣化している場合は、新規防水層の接着力が確保できないため、採用できません。



(3) 立上り部の高さが低く、適正な施工ができない場合は採用できません。

アゴの奥行きに関わらず水上で150mm未満の場合は、立上り防水層を撤去するか下図の様にアゴ下を断熱材等で埋めてパラペット鼻先で雨仕舞する防水工法・納まりをご検討ください。



(4) ドレン廻りの既存防水層は原則として、撤去・下地処理を実施してください。(既存状態良好の場合、撤去しないこともあります)

(5) 既存立上り防水層が塩ビシートや加硫ゴムシートの場合は、立上り部にアクリルゴム系塗膜防水アクアベースは採用できません。(別途ご相談ください。)

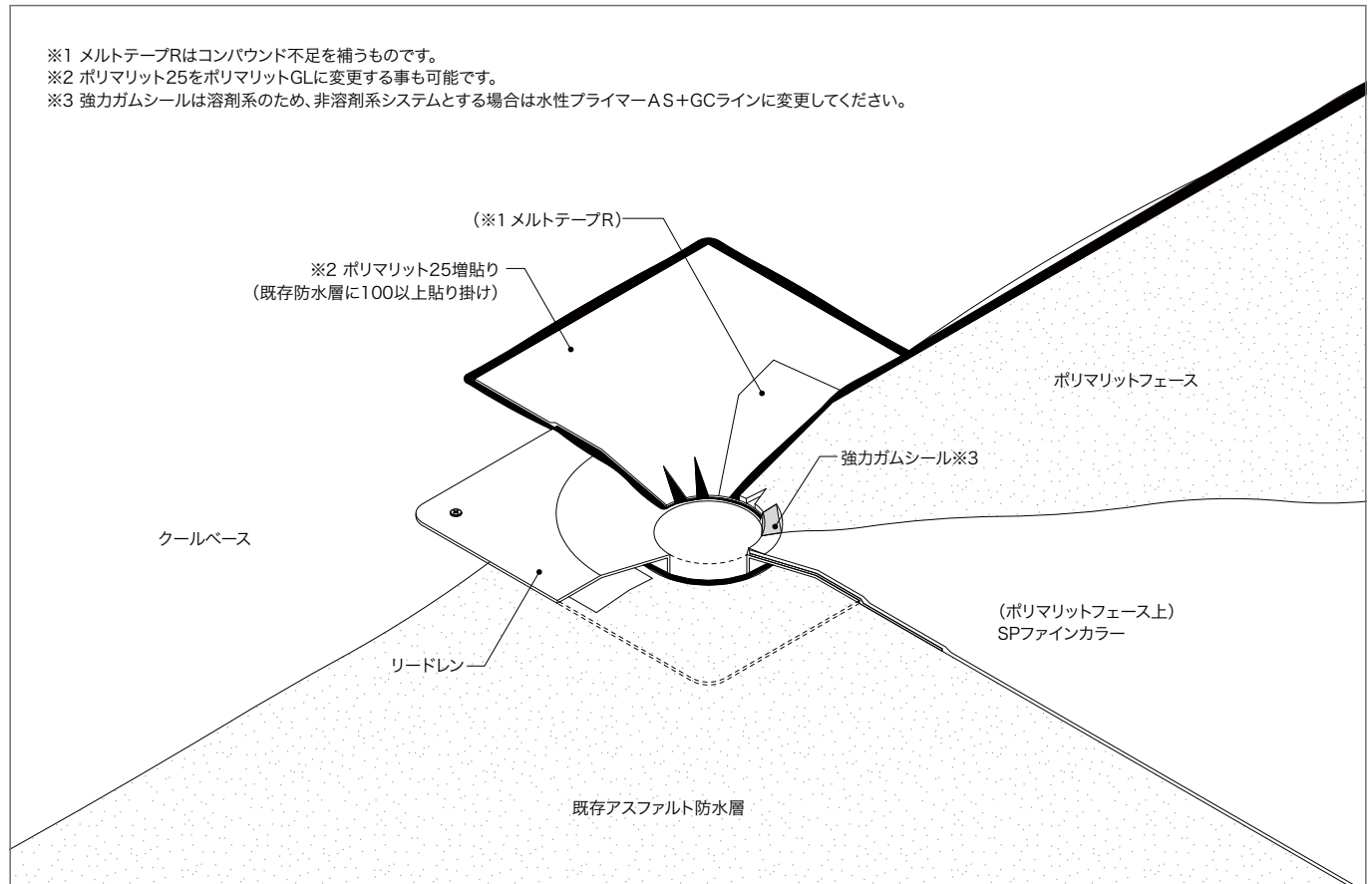
(6) 当工法を採用いただく場合は、事前に発注者、監理者に承認を得てください。

公共建築改修工事標準仕様書においては、既存立上り防水層がウレタン塗膜防水の場合を除き、立上り防水層は撤去となります。官公庁工事の場合は特にご注意ください。

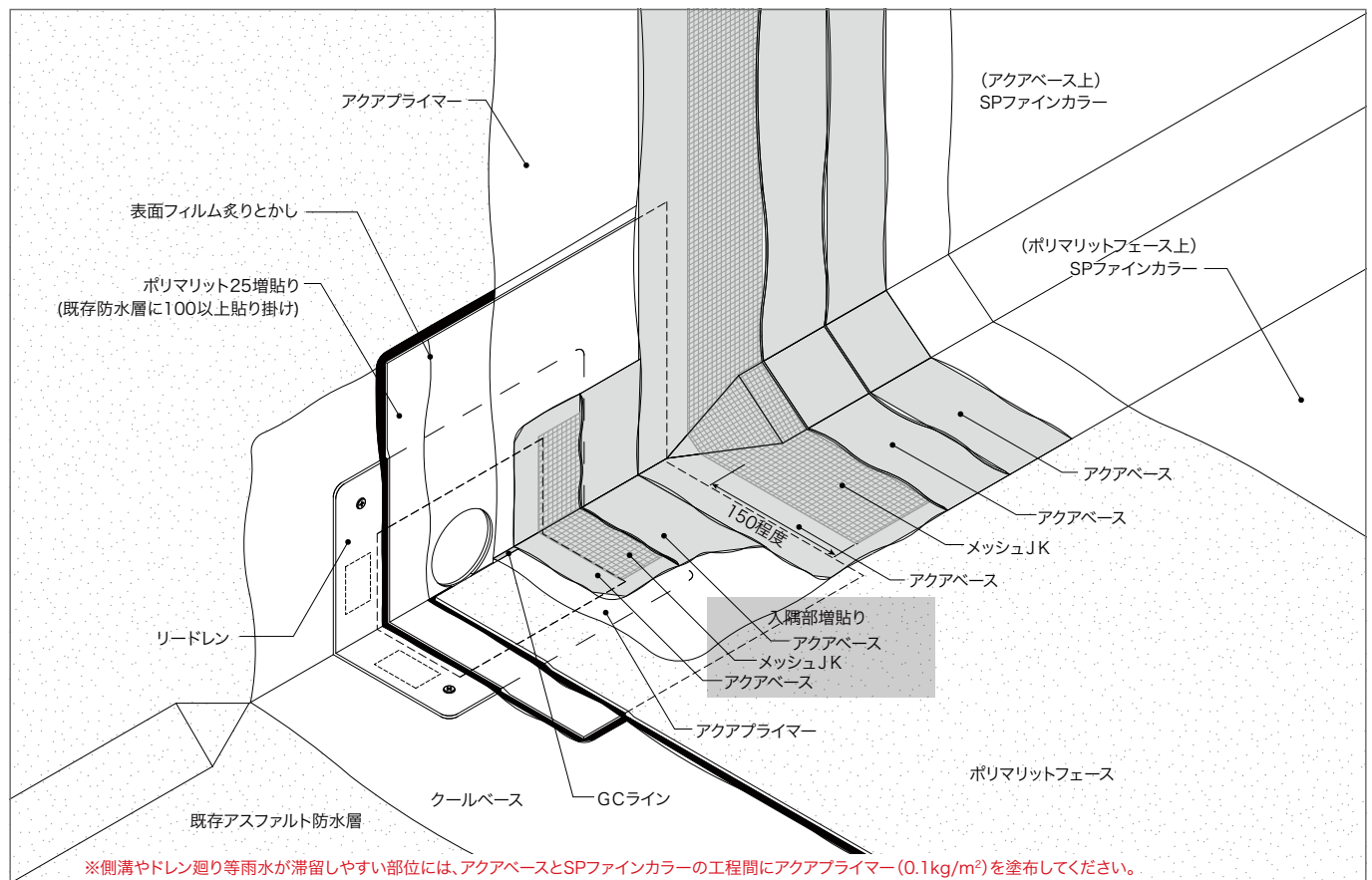
既存立上り防水層に上記のような状態がみられる場合は、立上り防水層の撤去をご検討ください

納まり図例

縦ドレン廻り (CMH-PSS-1の場合)

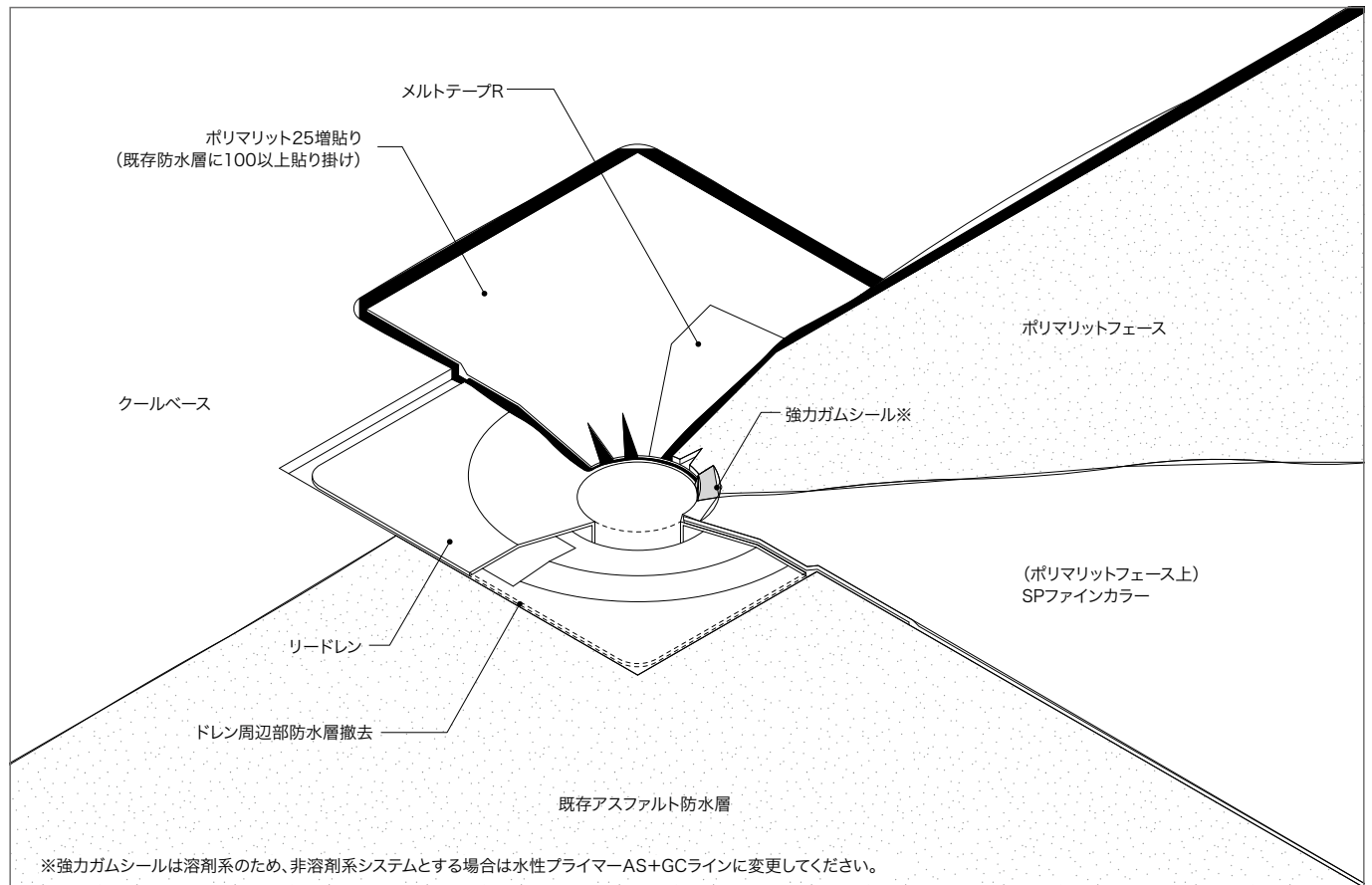


横ドレン廻り (CMH-PSS-1の場合)

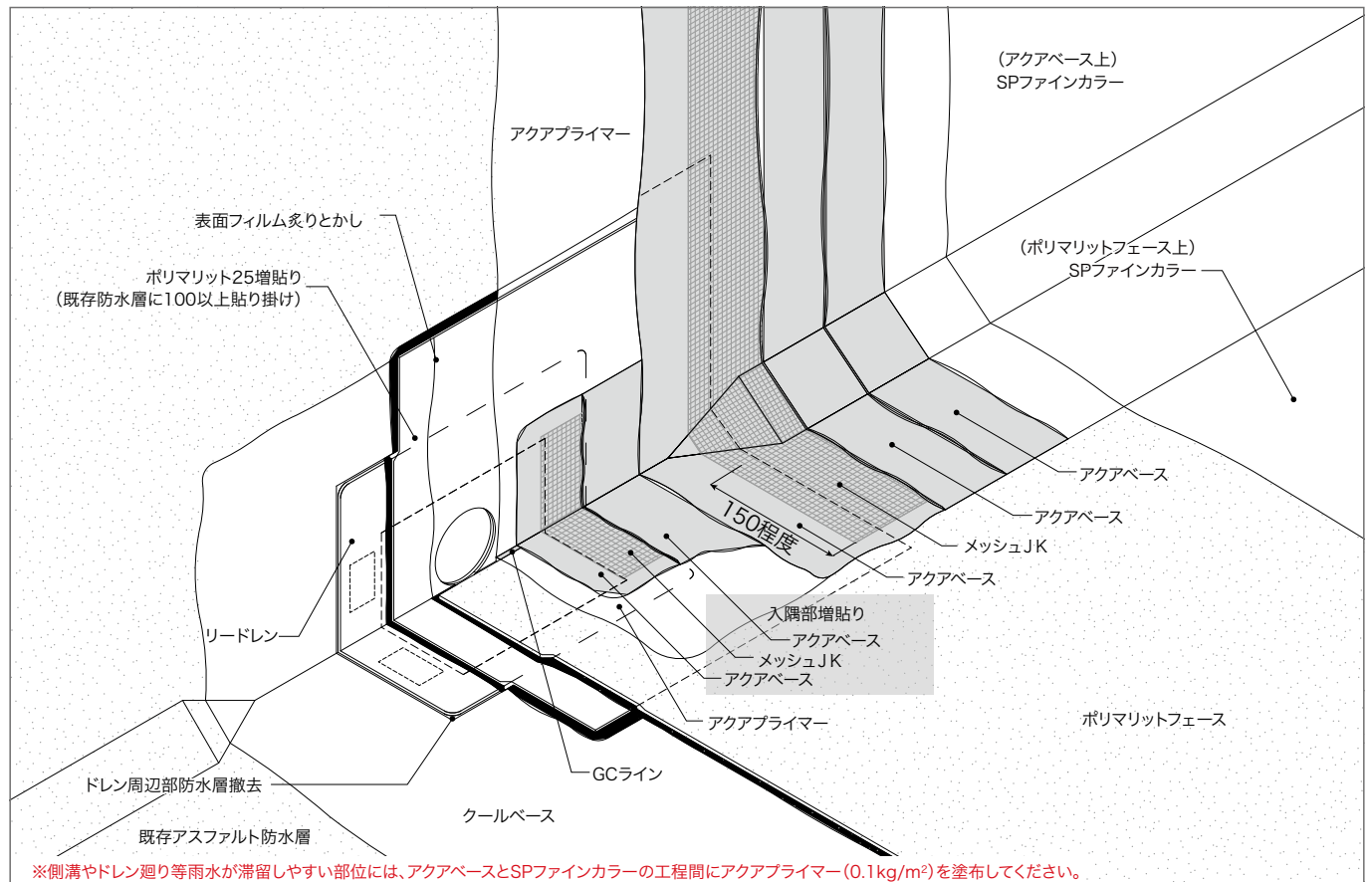


納まり図例

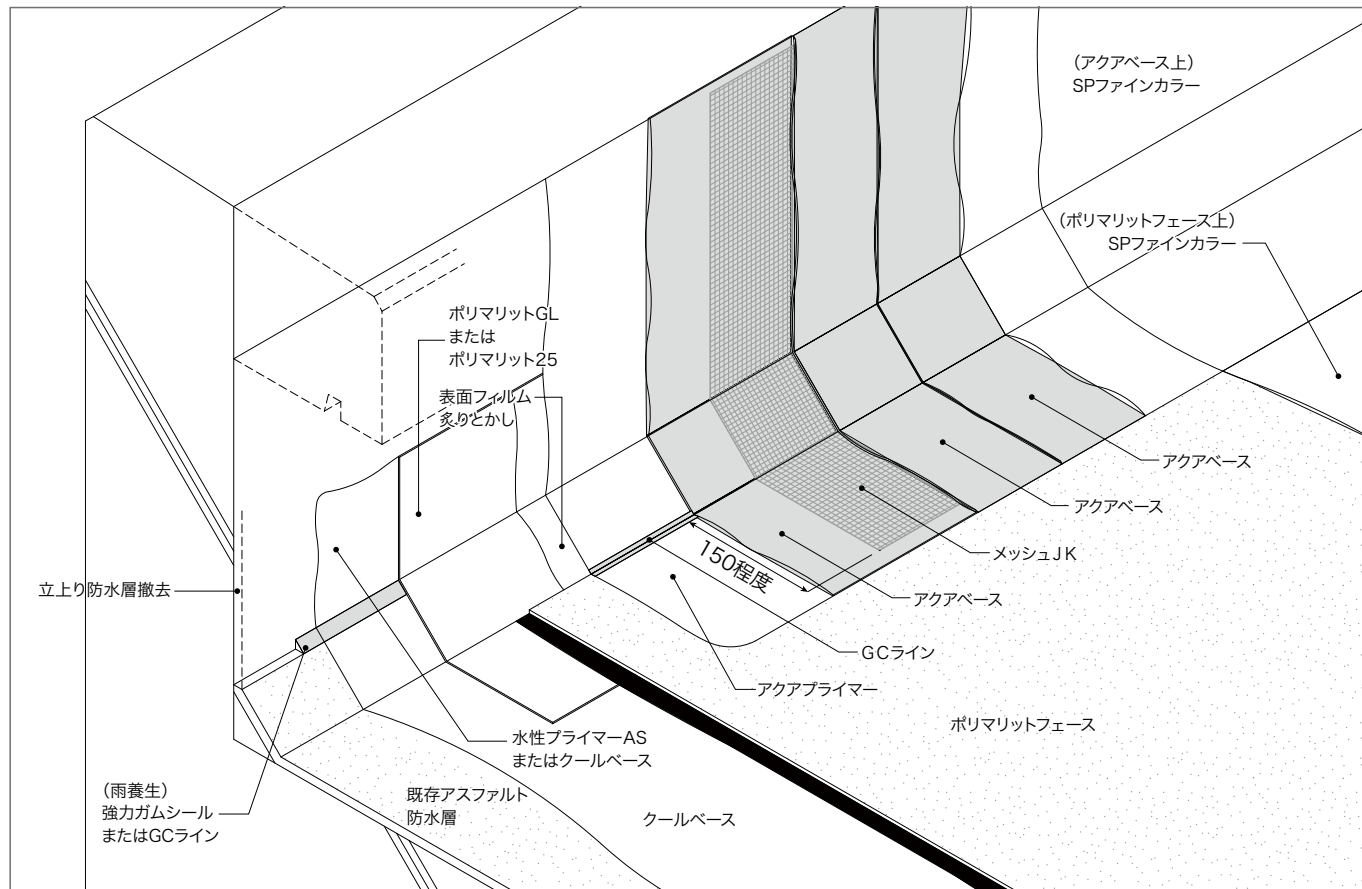
縦ドレン廻り(ドレン廻り防水層を撤去する場合)(CMH-PSS-1の場合)



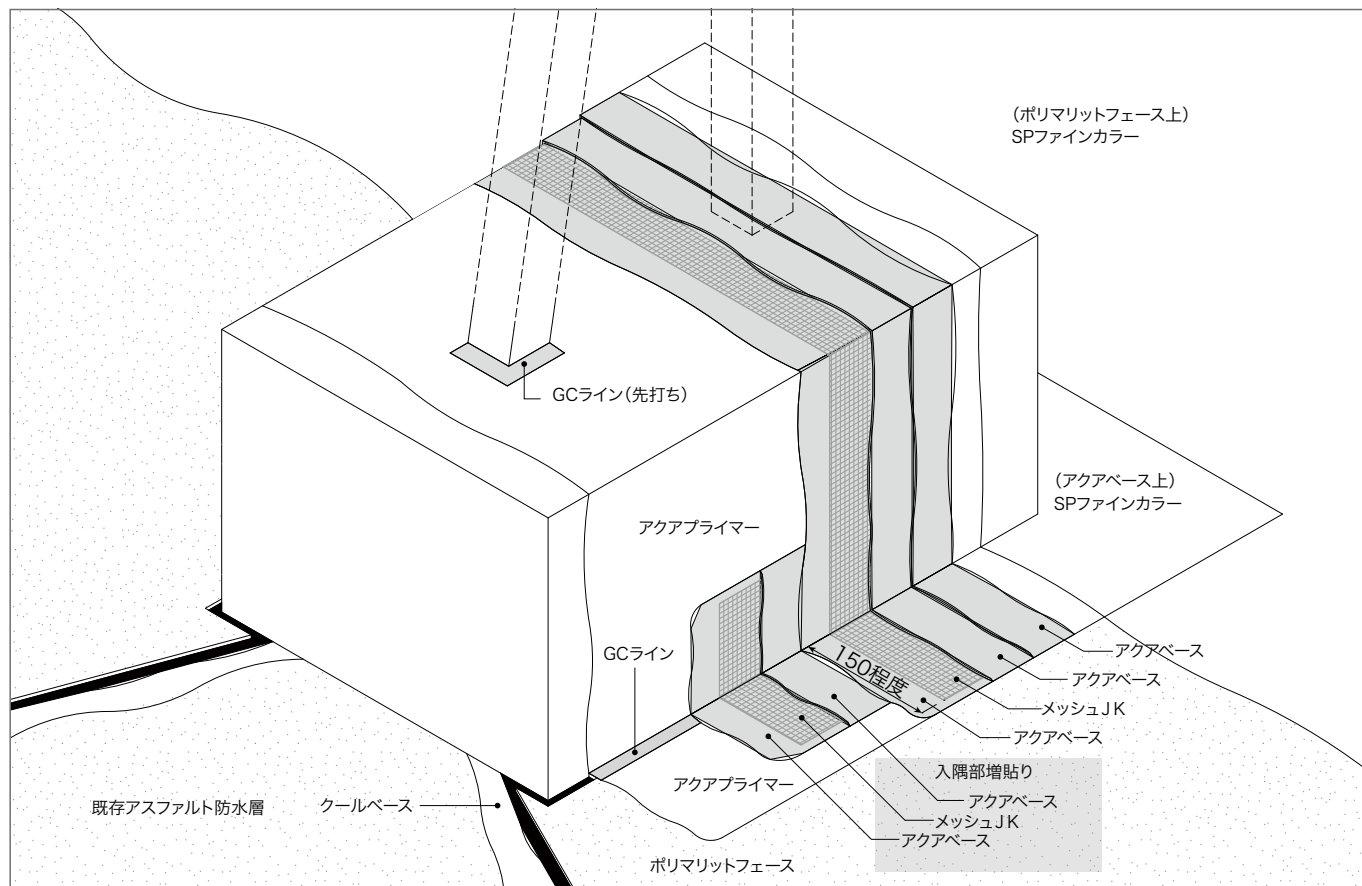
横ドレン廻り(ドレン廻り防水層を撤去する場合)(CMH-PSS-1の場合)



立上り防水層を撤去する場合 (CMH-PSS-1の場合)



架台廻り (CMH-PSS-1の場合)



材料紹介

ガムクールキャップEX



主に単層工法に使用する砂付キャップシート。
JIS A 6013 露出単層用R種Ⅱ類

1m×8m巻
厚さ:3.5mm

ガムクールキャップ



複層工法に使用する砂付キャップシート。
JIS A 6013 露出複層用R種Ⅱ類

1m×8m巻
厚さ:2.9mm

ガムクールFX



裏面が全面粘着タイプの中貼りシート。
JIS A 6013 非露出複層用R種Ⅱ類

1m×16m巻
厚さ:1.5mm

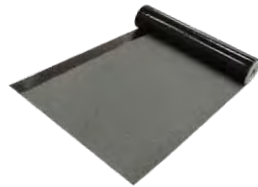
ガムクールFS



裏面がストライプ状粘着層になっており、複層工法の一層目に使用。

1m×16m巻
厚さ:1.0mm(粘着層を含まず)

ポリマリットフェース



表面が砕石砂付タイプの仕上げ用改質アスファルトシート。
JIS A 6013 露出単層防水用R種Ⅱ類

1m×8m巻
厚さ:4.0mm

ポリマリットPS



裏面がストライプ状粘着型通気層になっている下貼り用の改質アスファルトシート。
JIS A 6013 非露出複層防水用R種Ⅱ類

1m×16m巻
厚さ:1.5mm(粘着層を含まず)

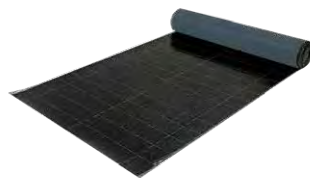
ポリマリットGL



裏面全面にゴムアス粘着層を設けた下貼り用改質アスファルトシート。
JIS A 6013 非露出複層防水用R種Ⅱ類

1m×8m巻
厚さ:2.0mm

ポリマリット25



2層工法に用いる下貼りおよび立上り部用の改質アスファルトシート。
JIS A 6013 非露出複層防水用R種Ⅱ類

1m×8m巻
厚さ:2.5mm

ガムリッチ18



出入隅やドレン廻りなどの複雑部位に使用する、伸縮性にすぐれた増貼り用のゴムアス系両面テープ。

180mm×8m巻

メルトテープR



バーナーで炙る熔融タイプのテープ。

150mm×25m巻

クールベース/クールベースパウダー



水性ゴムアスファルト系下地調整材。既存アスファルト防水層撤去後の穴埋め、不陸調整他に使用。

クールベース 8kg/缶
クールベースパウダー 16kg/袋

リベース



既存アスファルト防水層を活性化する下地処理材。

20kg/缶

アクアベース



アスファルト系材料との併用が可能な2液型アクリルゴム系塗膜防水材料。溶剤不使用の水性材料で、有機則・特化則非該当。

20kg/セット (主材: 19kg、添加剤: 1kg)

アクアプライマー



アクアベース専用の2液型水性エポキシ系プライマー。

16kg/セット (A剤: 8kg、B剤: 8kg)

メッシュJK



ポリエステル繊維を用いたアクアベース補強用メッシュ。

950mm×50m巻

SPサーモコート



アクリル樹脂を主成分とするエマルジョンと骨材で構成された、高耐久・高反射厚膜水性保護塗料。

18kg/缶

SPクリーンカラー



土、砂、花粉、珪藻類等の自然環境に起因した推積物の影響から防水層表面を保護する効果を持つ、骨材入り高反射水性保護塗料。

18kg/缶

SPファインカラー



アクリル樹脂を主成分とする、アスファルト系防水材料専用高反射水性保護塗料。

18kg/缶

エンドラップテープ100



強靱なガラスメッシュの片側に粘着層をコーティングした補強テープ。

100mm×50m巻

GCライン(カート/ジャンボ)



ガムクール防水層の貼仕舞、砂面処理、ドレン、パイプ廻りなどに使用する変成シリコン系シール材。

330ccカート、850ccジャンボカート
各10本/箱
*GCラインは、アスファルトプライマーに接着しませんのでご注意ください。

強力ガムシール



防水層の貼仕舞、ドレン、パイプ廻りなどに使用するゴムアスファルト系シール材。

330ccカートリッジ
20本/箱
20kg/缶、9kg/缶

アゴメタル



パラペット部や壁面に取り付けて、防水層端部へ雨水が回るのを防ぐゴムパッキン付アルミ製水切り金物。

長さ: 2,000mm
5本/箱

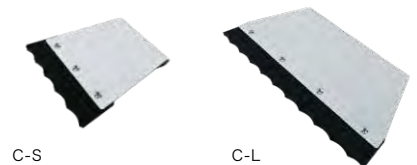
オルタックアゴテープ



パラペットアゴ下専用の粘着層付水切りテープ。

48mm×50m巻
厚さ: 0.14mm

ゴムクシバケC-S/C-L



塗膜材塗布用刷毛。
(アクアベースを塗布できる所定量1.0kg/m²)

C-S: 幅150mm C-L: 幅300mm
各1個
*交換用ゴム(5枚入)別売あり。

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

材料一覧

※各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。

※シート類につきましては、納品時に一定の割合で1ヵ所切断している製品(2ピース品)が混在しておりますので、ご了承ください。

品名	規格	備考
ポリマリットフェース	1m×8m巻 厚さ:4.0mm	砂付改質アスファルトシート JIS A 6013 露出単層防水用R種 II類
ポリマリットPS	1m×16m巻 厚さ:1.5mm (粘着層含まず)	部分粘着型改質アスファルトシート JIS A 6013 非露出複層防水用R種 II類
ポリマリットGL	1m×8m巻 厚さ:2.0mm	下貼り用改質アスファルトシート JIS A 6013 非露出複層防水用R種 II類
ポリマリット25	1m×8m巻 厚さ:2.5mm	下貼り用改質アスファルトシート JIS A 6013 非露出複層防水用R種 II類
ガムクールキャップEX	1m×8m巻	砂付改質アスファルトシート JIS A 6013 露出単層用R種II類
ガムクールキャップ	1m×8m巻	砂付改質アスファルトシート JIS A 6013 露出複層用R種II類
ガムクールFX	1m×16m巻	中貼り用改質アスファルトシート JIS A 6013 非露出複層用R種II類
ガムクールFS	1m×16m巻	部分粘着型改質アスファルトシート
メルトテープR	150mm×25m巻	エンドラップシール用熱熔融テープ
ガムリッチ18	180mm×8m巻	コーナーおよびドレン廻り用増貼りテープ
GCライン	330ccカート 850ccジャンボカート 各10本/箱	変成シリコーン系シーリング材
強力ガムシール※	330ccカート 20本/箱 20kg/缶、9kg/缶	ゴムアスファルト系シーリング材
アクアプライマー	16kg/セット(A剤:8kg、B剤:8kg)	2液型水性エポキシプライマー
メッシュJK	950mm×50m巻	防水層補強用ポリエステルメッシュ
エンドラップテープ100	100mm×50m巻	粘着層付補強用ガラスメッシュテープ
アクアベース	20kg/セット(主材:19kg、添加剤:1kg)	2液混合型アクリルゴム系塗膜防水材
リベース※	20kg/缶	アスファルト系下地活性材
クールベース	クールベース:8kg/缶 パウダー:16kg/袋	水性ゴムアスファルト系下地調整材
アゴメタル	長さ:2,000mm 5本/箱	バラペットアゴ、壁廻り用アルミ水切金物
オルタックアゴテープ	48mm×50m巻	バラペットアゴ下地専用水切りテープ
水性プライマーAS	17kg/缶	アスファルト系水性プライマー
SPサーモコート	18kg/缶	高反射・高耐久 水性アクリル系保護塗料 色:3色
SPクリーンカラー	18kg/缶	高強度・高反射 水性アクリル系保護塗料 色:3色
SPファインカラー	18kg/缶	高反射 水性アクリル系保護塗料 色:4色
リードレンCたて/横	1個/箱	改修用銅製ドレン
リードレンZたて/横	1個/箱	連結式改修用銅製ドレン
リードレンキャップZたて/横	1個/箱	リードレンZ専用連結式キャップ 色:黒
ドレンキャップ190/たてAS	190:1個/箱 たてAS:5個/箱	190:タテ型用キャップ(大)…色:黒 たてAS:タテ型用キャップ(小)…色:黒、ライトグレー
ドレンキャップ横引用C200/AS	1個/箱	横引用キャップ C200…色:黒 AS…色:ライトグレー
ステンレスペーパスNI/N	1個/箱	平面部用通気材
ゴムクシバケC-S/C-L	C-S 幅:150mm C-L幅:300mm 1個	塗膜材塗布用刷毛

※強力ガムシールおよびリベースは溶剤系のため、利用する場合は非溶剤系システムにはなりません。

施工時および使用上の注意とメンテナンス

アクアベースの取扱いと施工についての注意点

- 下地の突起、粉塵、レイタンス、油脂分などは除去し、必要に応じて樹脂モルタルなどで平滑に仕上げてください。
- 入隅に段差がある場合には、GCラインで段差調整処理をしてから、アクアベースを施工してください。
- アクアベース、アクアプライマーは水性の材料のため、凍結させないようにご注意ください。
- 材料は5～40℃で直射日光の当たらない場所に保管してください。
- 降雨、降雪時または降雨、降雪が予想される場合には施工を避けてください。
- 気温が5℃未満では施工をしないように注意してください。
- 水性の材料のため、気温・季節等の条件で乾燥時間が異なることを考慮してください。
- 冬場は乾燥が遅くなりますので、必要に応じて1回の塗布量を減らし、所定量を塗り重ねて施工してください。
- アクアベースは小分けせず、全量で混合して使用してください。

通常ご使用時の注意点

- 通常時における防水層上の歩行および使用は厳禁です。
- 維持補修の目的で防水層上を歩行する際には、防水層を損傷する可能性の低い履物(ゴム底の靴などの柔らかい履物)を使用してください。
- 防水層の表面が雨や雪でぬれていたり、落葉、苔、砂、埃などが堆積していると防水層上は滑りやすくなりますので、歩行の際には転倒にご注意ください。
- 防水層上に溶剤・油・薬品類をこぼさないよう、注意してください。万が一、こぼれてしまった際には専門工事店にご相談ください。
- 防水層に傷をつけたり、防水層上で物を落としたり、引きずったりすることは避けてください。
- 雪下ろしには、金属製のスコップなどの防水層を損傷させやすい道具を使用しないでください。
- 防水層の上に、重量物や振動物を載せないでください。
やむを得ない場合には、バリキャップや防振ゴム等、防水層の養生となる物で防水層を保護してください。
- たばこの投げ捨てや防水層の上での火気使用は厳禁です。
- 防水層上に直接客土して草木の植栽を行わないでください。植栽をご希望の際には、専門工事店にご相談ください。

メンテナンスのお願い

- 防水層の表面状況の点検…1年に1回
防水層の亀裂・破断の発生状況、仕上げ塗料の減耗状況、大きなフクレの発生の有無、設備基礎廻りの劣化状況
- ルーフトレン、排水溝、排水経路の点検、清掃…1年に2回
ゴミの清掃、ドレン廻りでの植物の生育状況
- 保護塗料の塗り替え
保護塗料の種類により、塗り替え時期が異なりますのでご相談ください。

防水層に下記のような状況が見られる事がありますが、防水性能に支障はありません。

- ・ 下地の含有水分による防水層のフクレや、砂付ルーフィングの砂粒の間隙に入り込んだ湿気による表層のフクレ
- ・ 雨水が滞留しやすい箇所に粉塵、泥、花粉、黄砂等が堆積し、乾燥収縮する事で生ずる表層クラック
- ・ 砂付ルーフィングに付着している余剰砂の脱落
- ・ 砂に含有される鉄分による錆

* 防水層の点検・補修および仕上げ塗料の塗り替えは専門技術が必要です。弊社または専門工事店に依頼してください。(有償)

※保護塗料は経年によりひび割れや減耗を生じる場合がありますが、これらの現象は防水性能に支障を及ぼすものではありません。

※シール材は経年によりひび割れや減耗を生じます。納まりが適切であれば、これらの現象は防水性能に直ちに支障を及ぼすものではありませんが、シール材は定期的な打ち替えをご推奨します。

北海道防水改修事業センター
東北防水改修工事協同組合
関東防水管理事業協同組合
東海防水改修工事協同組合
北陸防水改修事業センター
関西防水管理事業協同組合
中国防水改修事業センター
九州防水改修工事協同組合

田島ルーフィング株式会社
<https://tajima.jp>

東京支店

〒101-8579 千代田区外神田4-14-1
TEL 03-6837-8888

大阪支店

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-10-5
TEL 06-6443-0431

札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西6-2-6
TEL 011-221-4014

仙台営業所

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35
TEL 022-261-3628

北関東営業所

〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-49-8
TEL 048-641-5590

千葉営業所

〒260-0032 千葉市中央区登戸1-26-1
TEL 043-244-3711

横浜営業所

〒231-0012 横浜市中区相生町6-113
TEL 045-651-5245

多摩営業所

〒190-0022 立川市錦町1-12-20
TEL 042-503-9111

金沢営業所

〒920-0025 金沢市駅西本町1-14-29
TEL 076-233-1030

名古屋営業所

〒460-0008 名古屋市中区栄1-9-16
TEL 052-220-0933

神戸営業所

〒650-0023 神戸市中央区栄町通6-1-17
TEL 078-330-6866

広島営業所

〒730-0029 広島市中区三川町2-10
TEL 082-545-7866

福岡営業所

〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35
TEL 092-724-8111

2024.05 © SN 1,500

カタログ掲載上のおことわり

- ・印刷の色味は現物と異なる場合があります。
- ・各材料の寸法と重量は実際の製品と若干異なる場合があります。
- ・各仕様ページの工程図は、工程を分かりやすく示すことを目的としたイメージ図です。下地や材料の形状・寸法・色は実際と異なります。